国際交流センター長 就任のご挨拶

内科学上部消化管科
三輪 洋人

この度、国際交流センター長を拝命いたしました内科学上部消化管科の三輪です。社会のグローバル化に伴って、学際的な国際交流は広がり、その重要性は増大の一途をたどっています。前センター長の増山理教授のご尽力で本学の国際交流センターの活動の骨格ができあがり、中国、東南アジア、ヨーロッパなどの各国から研究者を迎える「特別研究員制度」や、学生に対する海外研修の機会を提供するなど有意義な事業が展開され、大きな成果が上がっています。

本学は今年創立４０周年の節目の年を迎え、世界的な研究者の招聘をはじめとした国際的な交流がますます活発化するものと思われます。この大切な時期に国際交流活動をより一層高めることにより、本学のさらなる発展に寄与できればと考えております。当センターの活動に対して、教職員および学生諸氏の積極的なご参加とご協力をお願い申しあげます。

教授就任

内科学 下部消化管科
中村 志郎
平成２４年４月１日就任

昭和61年	3月	国立富山医科薬科大学 医学部　卒業
	5月	大阪市立大学医学部附属病院 臨床研修医
昭和63年	4月	大阪市立大学医学部附属病院 前期臨床研究医
平成元年	4月	大阪市立大学大学院医学研究科　入学
平成5年	3月	大阪市立大学大学院医学研究科　修了
	4月	若草第1病院 消化器内科医長
平成6年	4月	大阪市立大学医学部附属病院 後期臨床研究医
	10月	大阪市立大学 第3内科助手
平成14年	7月	大阪市立大学医学部附属病院 総合診療センター講師
平成16年	4月	大阪市立大学 第3内科講師
平成17年	4月	りんくう総合医療センター市立泉佐野病院 消化器科部長
平成18年	7月	りんくう総合医療センター市立泉佐野病院 診療局次長（兼任）
平成19年	4月	兵庫医科大学 内科学 下部消化管科 准教授
平成24年	4月	兵庫医科大学 内科学 下部消化管科 教授

内科学 上部消化管科
渡 二郎
平成２４年４月１日就任

昭和61年	3月	旭川医科大学 医学部　卒業
	5月	旭川医科大学 第三内科研修医
昭和62年	4月	市立士別総合病院 内科医員
平成元年	4月	財団法人早期胃癌検診協会 中央診療所 内科医員
平成4年	4月	旭川医科大学 第三内科研究生
平成5年	4月	旭川厚生病院 消化器科医長
平成8年	4月	旭川医科大学 第三内科医員
平成10年	10月	旭川医科大学 第三内科助手
平成13年	10月	米国ニュージャージー医科歯科大学 消化器内科 postdoctoral fellow
平成17年	4月	旭川医科大学 第三内科講師
平成18年	4月	旭川医科大学病院 光学医療診療部副部長（兼任）
平成19年	11月	釧路市医師会病院 副院長
平成21年	4月	兵庫医科大学 内科学 上部消化管科 准教授
平成24年	4月	兵庫医科大学 内科学 上部消化管科 教授

第７回 レクチャーシップ「知の創造」を開催

独立行政法人
理化学研究所
神戸研究所 所長
竹市 雅俊 氏

平成２４年１月１７日、独立行政法人理化学研究所神戸研究所所長の竹市雅俊氏をお招きし、「細胞からみた多細胞体のデザイン」をテーマにご講演いただきました。竹市先生は細胞接着分子カドヘリンの発見者として国際的に著名な研究者であり、今回の講演は直接お話を伺える貴重な機会となりました。当日は多数の学生や教職員が聴講し、講演後には質疑応答も活発に行われました。

退職記念講演会が行われました

平成２４年３月１５日、平成２３年度末で定年退職される教授の退職記念講演会が行われ、多数の学生や教職員が聴講しました。講演終了後にはお二人の長年のご功労を称え学生の代表者より花束が贈呈されました。

遺伝学
山本 義弘 主任教授

講演テーマ
「希少鳥類のミトコンドリアゲノムプロジェクト」

臨床核医学
柏木 徹 教授

講演テーマ
「核の医学への応用：核医学、その進歩と発展」

花束贈呈

会場の様子

免疫学・医動物学研究チームの論文が米国科学アカデミー紀要（電子版）に掲載されました

平成２４年２月１４日、免疫学・医動物学の研究チームが発表した免疫に関する論文『Contribution of IL-33-activated type Ⅱ innate lymphoid cells to pulmonary eosinophilia in intestinal nematode-infected mice（IL-３３によって活性化されたⅡ型自然型リンパ系細胞は腸管寄生性線虫感染でおこる肺好酸球増多症を誘導する）』が米国科学アカデミー紀要（電子版）に掲載されました。

論文の掲載にあたり、中西憲司学長、安田好文助教が記者会見を行いました。本研究において、キチン（線虫などの虫に含まれる成分）が原因で免疫反応が過剰になり、肺炎が起こる仕組みが解明されました。実験はマウスで行われましたが、その仕組みはヒトも同様と考えられ、肺炎予防や治療への応用が期待できるものです。

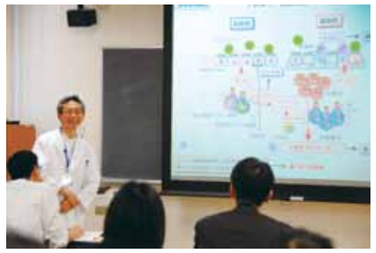
記者発表の様子

本誌の43ページに、本論文に関する新聞記事を掲載しています。

アレルギー性鼻炎に関する論文が米国アレルギー学会誌（電子版）に掲載されました

平成２４年３月２９日、本学の研究チームが発表した免疫に関する論文『A critical role of IL-３３ in experimental allergic rhinitis（実験的アレルギー性鼻炎におけるIL-３３の重要な役割）』がJ Allergy & Clinical Immunology（The American Academy of Allergy Asthma and Immunology［アレルギー 喘息＆免疫学アメリカンアカデミー］の学会誌）の電子版に掲載されました。

掲載にあたり、本論文の内容について先端医学研究所の所長、アレルギー疾患研究部門の善本知広教授より記者発表が行われました。本研究では多くの方々が罹患しているアレルギー性鼻炎の引き金となるたんぱく質（IL-３３）が特定され、全く新しい診断法と治療薬の開発につながると期待されます。



記者発表の様子

本誌の44ページに、本論文に関する新聞記事を掲載しています。

学位授与

氏　名	専　攻	博　士　論　文　名	報告番号	授与年月日
飯田（吉田）史絵（いいだ（よしだ）しえ）	医科学	Evaluation of Morphine-induced Emesis by Rat Pica Model	甲第571号	H23.3.31
香川　真二（かがわ　しんじ）	医科学	Effects of Constraint-Induced Movement Therapy on Spasticity in Patients with Hemiparesis after Stroke	甲第572号	H23.3.31
永井　悦子（ながい　えつこ）	医科学	Effects of miglitol in combination with intensive insulin therapy on blood glucose control with special reference to incretin responses in type 1 diabetes mellitus	甲第573号	H23.3.31
藤山　理世（ふじやま　りよ）	医科学	新しい結核感染診断法QFT-2Gの有用性 －接触者健診における「接触度」を用いたツベルクリン反応検査との比較検討－	甲第574号	H23.3.31
中井　真由美（なかい　まゆみ）	医科学	Characterization of novel germline c-*kit* gene mutation, KIT-Tyr553Cys, observed in a family with multiple gastrointestinal stromal tumors	甲第575号	H23.3.31
村上　亜紀（むらかみ　あき）	医科学	Clinical roles of pleural effusion MMP-3 levels in malignant pleural mesothelioma	甲第576号	H24.3.8
中川　登（なかがわ　のぼる）	先端医学	Knocking-in the R142C mutation in transglutaminase 1 disrupts the stratum corneum barrier and postnatal survival of mice	甲第577号	H23.3.31
田村　邦宣（たむら　くにひろ）	医科学	A2a Adenosine Receptor Mediates HepG2 Cell Apoptosis by Downregulating Bcl-X_L Expression and Upregulating Bid Expression	甲第578号	H23.3.31
竹下　治範（たけした　はるのり）	医科学	Sphingosine 1-phosphate(S1P) / S1P receptor 1 signaling regulates receptor activator of NF-κB ligand(RANKL) expression in rheumatoid arthritis	甲第579号	H23.3.31
前田　理沙（まえだ　りさ）	医科学	Is serum thioredoxin-1 a useful clinical marker for malignant pleural mesothelioma?	甲第580号	H24.3.31
平山　倫子（ひらやま　のりこ）	医科学	Pleural effusion VEGF levels as a prognostic factor of malignant pleural mesothelioma	甲第581号	H24.3.31
土井　啓至（どい　ひろし）	医科学	Efficacy Of Polaprezinc For Acute Radiation Proctitis In A Rat Model	甲第582号	H24.3.31
森下慎一郎（もりしたしんいちろう）	医科学	Impaired physiological function and health-related QOL in patients before hematopoietic stem-cell transplantation	甲第583号	H24.3.31
細見　雅史（ほそみ　まさし）	医科学	A modified method for constraint-induced movement therapy: A supervised self-training protocol	甲第584号	H24.3.31
吉田　直樹（よしだ　なおき）	先端医学	Inhibition of TRPA1 channel activity in sensory neurons by the glial cell line-derived neurotrophic factor family member, artemin	甲第585号	H24.3.31
井上　裕之（いのうえ　ひろゆき）	医科学	Cone-beam CTを用いた自動位置照合における治療計画用CT画像のスライス厚の検討	甲第586号	H24.3.31

氏　名	専　攻	博　士　論　文　名	報告番号	授与年月日
田片　将士（たかた　まさし）	医科学	Glucocorticoid-induced TNF receptor-triggered T cells are key modulators for survival/death of neural stem/progenitor cells induced by ischemic stroke	甲第587号	H24.3.31
宇和　伸浩（うわ　のぶひろ）	医科学	CD44 expression is related to poor prognosis of hypopharyngeal squamous cell carcinona	甲第588号	H24.3.31
谷口　怜子（たにぐち　りょうこ）	医科学	Interleukin-17-and protease-activated receptor 2-mediated production of CXCL1 and CXCL8 modulated by cyclosporine A, vitamin D_3 and glucocorticoids in human keratinocytes	甲第589号	H24.3.31
岡田あすか（おかだ）	医科学	PDGF-D/PDGF-$\beta\beta$ Receptor-Regulated Chemotaxis of Malignant Mesothelioma Cells	甲第590号	H24.3.31
奥川　卓也（おくがわ　たくや）	医科学	Down-regulation of claudin-3 is associated with proliferative potential in early gastric cancers	甲第591号	H24.3.31
大杉　聡宏（おおすぎ　としひろ）	医科学	Hydration Status After Overnight Fasting as Measured by Urine Osmolality Does Not Alter the Magnitude of Hypotension During General Anesthesia in Low Risk Patients	甲第592号	H24.3.31
森寺　邦康（もりでら　くにやす）	医科学	頭頸部扁平上皮癌における超選択的動注化学療法併用放射線療法の治療成績	甲第593号	H24.3.31
Lutfi,Hardiyanto（るとふい　はるでぃやんと）	医科学	The N-linked carbohydrate moiety of male reproductive tract CD52 (mrt-CD52) interferes with the complement system via binding to C1q	甲第594号	H24.3.31
津田　健吉（つだ　けんきち）	神経内科学	多発性ラクナ梗塞の認知機能 －事象関連電位（ERP）ならびに局所脳血流による検討－	乙第333号	H23.11.10
Bishnu Acharya（びしゅぬ　あちゃら）	細胞遺伝子治療学	Improving Gene Transfer in Human renal Carcinoma Cells: Utilization of Adenovirus Vectors Containing Chimeric Type 5 and Type 35 Fiber Proteins	乙第334号	H24.2.2
池原　美咲子（いけはら　みさこ）	耳鼻咽喉科学	The 10-year disease-free rate of attic cholesteatoma based on a new staging system	乙第335号	H24.2.2
飯田　洋也（いいだ　ひろや）	機能病理学	Expression of hepatocyte markers in mass-forming peripheral and periductal-infiltrating hilar intrahepatic cholangiocarcinomas	乙第336号	H24.2.2
造住　誠孝（ぞうずみ　まさたか）	病院病理学	New double embedding technique for specimens of endoscopic submucosal dissection using agarose: comparison with other media	乙第337号	H24.3.8
岡田　要平（おかだ　ようへい）	臨床検査医学	Preventive and therapeutic effects of tacrolimus in an interleukin-10-deficient mouse model of colitis	乙第338号	H24.3.23
吉田　幸治（よしだ　こうじ）	下部消化管疾患学	Scheduled Infliximab Monotherapy to Prevent Recurrence of Crohn's Disease Following Ileocolic or Ileal Resection: A 3-year Prospective Randomized Open Trial	乙第339号	H24.3.23

副学長（教育担当）就任のご挨拶

共通教育センター
末廣 謙

この度、副学長（教育担当）を拝命致しました。平成２０年４月より教務部長を務めさせて頂いており併任となりますが、学長を補佐し教育関係全般を統括する立場から、職務の重大さに身が引き締まる思いです。

本年、看護学部、リハビリテーション学部が２回目の卒業生を送り出し国家試験結果もまずまずの成績を残すことができました。来年は薬学部においても第１期生が卒業することになり国家試験、就職支援など本学の将来を左右する重要な案件が差し迫っております。国家試験対策も教育関連で最重要課題ですが、各学部の特殊性などもあり、教育責任者が全学を統括する以上に、学生に対する各学部教員のきめ細かな対応が重要となってきます。

さらに本年度は全学完成年次を迎え、より良いカリキュラムの検討と実行、また教育効果を向上させていくための授業評価の見直し等、なすべき諸問題は山積しております。

これまで以上に皆様方のご支援、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

共通教育センター長　就任にあたって

共通教育センター
磯 博行

末廣謙先生の後任として共通教育センター長を拝命いたしました。共通教育センターは３学部の学生の学力を１年間の基礎教育を通じて底上げし、次の専門課程へ橋渡しする重要な部署であります。兵庫医療大学に入学し、クラブ活動などフレッシュな気持ちで羽を伸ばしてもらうのも大事ですが、４年間（薬学は６年間）、しっかり学業に専念し、将来の医療人として大成してもらえるよう基礎固めを計りたいと考えます。また本学では平成２５年度から基礎教育に新カリキュラムを導入します。その実施に向けて鋭意邁進する所存です。よろしくお願いします。

教授就任

薬学部
大河原 知水
平成２４年４月１日就任

昭和62年	３月	旭川医科大学 医学部 医学科　卒業
	４月	大阪大学大学院 医学研究科 生理系生化学　入学
平成3年	４月	大阪大学大学院 医学部 生化学講座基礎系医員
平成4年	４月	防衛医科大学校 衛生学講座 助手
平成5年	10月	米国シティーオブホープ研究所 遺伝生化学部門研究員
平成11年	８月	防衛医科大学校 衛生学講座 指定講師
平成12年	１月	兵庫医科大学 生化学講座講師
平成19年	４月	兵庫医療大学 薬学部 医療薬学科 非常勤講師
平成20年	４月	兵庫医療大学 薬学部 医療薬学科 准教授
平成24年	４月	兵庫医療大学 薬学部 教授

兵庫医療大学

兵庫医科大学病院・兵庫医科大学ささやま医療センター合同病院説明会を開催

平成２４年２月１６日、M棟１１２講義室において看護学部３年生を対象にした「兵庫医科大学病院・兵庫医科大学ささやま医療センター合同病院説明会」を開催しました。

説明会では両病院より、病院概要や平成２５年春の採用に向けた応募方法、採用試験、職場見学等の説明が行われました。兵庫医科大学病院からは、兵庫医科大学病院に入職した第１期生達（昨年卒業）の様子も伝えられ、配属状況や教育・研修・サポート体制など、入職の決め手となる具体的な情報を知ることができました。

また、兵庫医科大学ささやま医療センターからは、少子高齢化が著しい篠山市の地域特性とともに、そこで地域医療の第一線を支える同病院の現状について説明が行われました。

第２部では、「先輩看護師とディスカッション」と題し、兵庫医科大学病院より、７部署（内科系・外科系・救命救急センター・手術室・ＩＣＵ・ＮＩＣＵ・ＣＣＵ）の先輩看護師をお招きし、学生との対談が行われました。各部署での仕事内容や入職して１年目の苦労、やりがいなど、さまざまな内容で対談ははずみ、就職活動や国家試験を控える学生にとって、とても参考になる有意義な説明会となりました。

兵庫医科大学病院・兵庫医科大学ささやま医療センター１日職場見学を行いました

平成２４年３月５日から９日、１５日・１６日、看護学部３年生を対象とした「兵庫医科大学病院・兵庫医科大学ささやま医療センター１日職場見学」が行われました。内科病棟や外科病棟、臨地実習では経験することのできない救命救急センター、手術室、ＩＣＵ、ＮＩＣＵなどが見学の対象部署となり、学生たちは希望する部署で１日、先輩看護師について見学を行いました。技術的なことはもちろんのこと、看護師の業務や１日のサイクルを実習時とは違う内容で体験しました。兵庫医科大学病院看護部丸山美津子次長より「会話ができない患者さんには、何をしてほしいか、どうしたら楽になるかなど先読みすることが大切です。」などのアドバイスがあり、参加した学生たちにとって、これからの就職活動や臨地実習に向けて、参考となる見学会となりました。

看護学部社会人スキルガイダンスを開催

平成２４年２月２２日、M棟１１２講義室において、看護学部３年生を対象とした「社会人スキルガイダンス」が開催されました。株式会社文化放送キャリアパートナーズより特別講師をお招きし、これから始まる就職活動の年間スケジュールや病院選びの基準、就職試験対策、身だしなみや言葉遣い、メールの書き方などのビジネスマナーについて講義していただきました。
また、模擬面接も行われ、参加した学生は、志望動機や自分の看護観、自己ＰＲについて緊張した様子で答えていました。面接時に心得ておくべき点についても教えていただき、学生たちはメモをとるなど、熱心に聞いていました。

薬学部５年生対象合同企業就職説明会を開催

平成２３年１２月２４日、本学キャンパス内にて、薬学部５年生を対象とした合同企業就職説明会を開催しました。同説明会は、平成２５年春に卒業予定の薬学部１期生を対象としたもので、本学としては初の試みとなります。
当日は、製薬関係企業１２社、調剤薬局関係３１社、その他企業１社の計４４社の企業様にご参加いただきました。

説明会には、薬学部５年生１３５名が参加し、参加企業様からそれぞれ自社の特徴や業務内容、求める人材像等について説明して頂き、学生たちは各自興味のある企業ブースで、ご担当者の説明に熱心に聞き入っていました。
薬学部５年生は、病院・薬局への実務実習が必須となって忙しい時期を迎えている中、本格的な就職活動がこれから始まります。大学としては、キャリアデザインセンターを中心に、このような説明会の開催とともに日々の様々な取組みを通じて、学生全員が希望した進路に進めるよう最大限のサポートをしていきます。

リハビリテーション学部 体験入学 開催

平成２４年３月２９日、リハビリテーション学部の「高校生対象１日体験入学」を開催し、理学療法学科に３６名、作業療法学科に２０名の高校生が参加しました。両学科とも、食堂にて教員や在学生とのランチを楽しみ、体験入学の終了後には修了証が授与されました。「期待以上に充実していた」というアンケート回答が９割を超え、とても充実したイベントとなりました。

理学療法学科『オリンピックに参加したフィジオ(トレーナー)による高校生対象特別講義』

「スポーツ理学療法とは？」
女子ホッケー日本代表のフィジオ(トレーナー)としてオリンピック参加経験のある、理学療法学科の川口教授が、スポーツ理学療法についての講義を行いました。

「スポーツ現場における応急処置」
スポーツ現場における応急処置として、アイシングを体験。なぜ冷やすことが必要なのか、どのように包帯をあてて冷やせばよいのかなどを確認しながら、実際に処置をしました。

「自分で出来るコンディショニング」
正しいストレッチの方法を学びました。ストレッチ後、みんな体が柔らかくなっていました。

作業療法学科『ひらめきと工夫で生活に夢(生きがい)を！！【作業療法士の仕事】』

「身振りとしぐさで世界が広がる！？」
コミュニケーションがうまくとれない患者さんにとって重要なボディランゲージについて、ペアワークを行いながら学びました。

「ちょっとの工夫で動作が可能に！？」
椅子の高さや机の高さによって、負担のかかる部位が違うことなどを体験したり、身体の機能をカバーするための様々な福祉機器を実際に使いました。

「赤ちゃんに学ぶ運動のhow-to」
発達機能実験室で、小さな子どもの療育に使う器具を体験。身体能力を鍛えるさまざまな目的があることを童心に返りながら学びました。

女子バスケットボール部が近畿医歯薬バスケットボール大会で優勝しました

平成２３年１２月３日から５日、岐阜県長良川メモリアルセンターで開催された「近畿医歯薬バスケットボール大会」において、兵庫医療大学女子バスケットボール部が見事優勝に輝きました。昨年度に引き続きの優勝で、２連覇を果たしました。

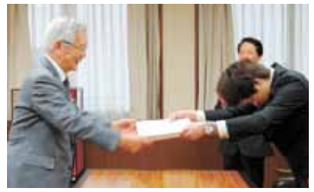
女子バスケットボール部は平成２３年１０月１５日・１６日に開催された「フレンズカップバスケットボール大会」でも優勝しており、平成２３年度は２冠を達成することができました。彼女たちの今後の活躍にますます期待します。

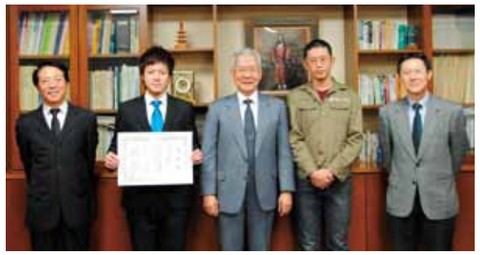
近畿医歯薬バスケットボール大会にて

フレンズカップバスケットボール大会にて

第１回 兵庫医科大学・兵庫医療大学交流戦 理事長杯　賞状授与

平成２３年６月から１０月にかけて第１回兵庫医科大学・兵庫医療大学交流戦 理事長杯が行われ、各大学の６つの部が互いに日頃の練習の成果を競い合いました(試合結果は広報２１４号に掲載しています)。５勝１敗で兵庫医療大学がみごと勝利をおさめ、平成２４年１月１９日、新家荘平理事長より賞状が授与されました。





左・・・・・兵庫医療大学 藤田幸久学生部長
中央左・・・バドミントン部 部長　佐々木拓馬さん
（兵庫医療大学 リハビリテーション学部３年）
中央・・・・新家荘平理事長
中央右・・・学生会常任委員 谷内孝さん
（兵庫医科大学 医学部３年）
右・・・・・兵庫医科大学 越久仁敬学生部長

「兵庫医療大学学長ブログ」が本になりました

兵庫医療大学ホームページにて配信中の「学長ブログ」は、開始から昨年夏までの２年半で約１５０編を掲載し、ブログの閲覧数は１０万回を超えています。この度その中から６３編が抜粋され一冊の本になりました。タイトルは『心臓外科医の見た医療事情』。兵庫医療大学の取り組みや、臓器移植など医療現場の課題、さらに医療専門職者の生涯教育など、松田暉学長の想いが詰まった一冊です。神戸新聞（２月４日発行）でも紹介されました。

『心臓外科医の見た医療事情』
税込1,800円　図書出版 エピック

学長ブログ　http://www.huhs.ac.jp/president/

兵庫医科大学病院長　再任のご挨拶

兵庫医科大学病院長
太城 力良

２００９年４月より病院長を務めて参りましたが、病院部長会、教授会の議を経て理事会において再任され、２０１４年３月まで継続することになりました（２期目は２年間）。

本年は開学および病院開院４０周年の節目にあたり１１月には記念式典が予定されています。また、昨年３月に着工した急性医療総合センターは年末には完成し来年６月には運用を開始する予定です。

これらの事業を達成し、４０周年事業だけでなく、兵庫医大のグランドデザインの達成と教職員の処遇改善を支える財政基盤の確立に努めたく存じますので、１期目と同様に教職員各位のご指導・ご協力をお願い申し上げます。

平成２４年度の病院の事業計画は次のとおりです。

１．急性医療総合センターの開設準備
大型医療機器については５月に、その他については上半期に決定します。人材の確保、研修を徹底して実施し具体的な運用計画を作成します。

２．来年２月に電子カルテ導入
文書管理システム、スキャンシステム並びに画像データ読込みシステムを事前導入します。各部門システムと医事システムのデータ連携を強化します。

３．医療収入の確保
入退院管理室主導による稼働率の向上をめざし、稼働率９０．６％を目標とします（１２階特別病棟の稼働率８０％を含む）。手術センターを設置し、手術件数の増加を図ります。病棟薬剤師の配置、外来紹介率７０％、逆紹介率６０％、新患率１０％を目標とします。

核医学・PETセンター長　就任挨拶

核医学・PETセンター
奥 直彦

本年４月から核医学・PETセンター長に就任いたしました。当センターは開設後６年目にはいり、お陰様で癌診断のFDG-PET検査を中心に多くの方にご利用頂いております。本年初からは３台目の最新鋭PET/CT装置が稼働しており、低被曝かつ高精細な検査が可能となっております。核医学技術を応用した低侵襲で苦痛の少ない新しい検査法やアイソトープ治療法も開発されており、そのような新しい技術がご提供できるよう努めて参ります。センターをご利用頂きます先生方や患者さん、受診者の方にご満足頂けますよう、センター職員が一丸となって診断の品質やサービスの向上、被曝の低減にこだわっていく所存でございます。今後ともご利用よろしくお願いいたします。

副院長 就任挨拶

平成２４年３月３１日まで、副院長は難波光義主任教授、吉矢晋一主任教授、山田明美看護部長の３名体制をとっていましたが、平成２４年４月１日より難波光義主任教授、中野孝司主任教授、阪上雅史主任教授、西信一主任教授、山田明美看護部長の５名体制にて病院の運営や病院長のサポートを行うこととなりました。

新たに副院長に就任された３名をご紹介します。

地域連携・癌診療連携担当

内科学
呼吸器・RCU科
中野 孝司

この度、副院長を拝命致しました呼吸器内科の中野です。太城院長のもと、地域連携・癌診療連携担当副院長の重責を浅学の身ながら精一杯務めたいと存じます。何卒、宜しくお願い申し上げます。私は卒業後、肺癌・中皮腫などの呼吸器悪性腫瘍と感染症を含む呼吸器疾患全般の診療を行って参りました。呼吸器病に限らず、国民の疾病構造は高齢化に伴い大きく変化しております。団塊世代が受療率の高い後期高齢者になる２０２５年までは、５年毎に２００万～３００万人の多くの国民が後期高齢者となり、２０２５年には２１６７万人に達します。現在、２０２５年を目途に病院・病床の機能を分化させる国策が始まっておりますが、病院機能分化には医療連携が極めて重要な役割を果たします。諸先生方、兵庫医大同窓会の先生方、医療関係の皆様方の御支援をお願い申し上げますとともに就任の御挨拶を申し上げます。

医療安全管理担当

耳鼻咽喉科学
阪上 雅史

本年４月より、医療安全管理担当の副院長を拝命しました耳鼻咽喉科の阪上雅史です。兵庫医大には平成６年１１月に赴任し、この１７年間、中内耳手術・側頭骨外科に専念し、医療安全とは程遠い対極に居たような気がします。現在、医療安全について一から勉強しているところであります。太城力良病院長、前任の吉矢晋一教授、角谷智子統括セーフティマネージャー、宮崎美貴子専従セーフティマネージャーをはじめ病院の皆様の力をお借りして全力を尽くす所存ですので、２年間何卒よろしくお願い申し上げます。

情報システム・急性医療総合センター運用担当

集中治療医学
西 信一

平成１８年４月に兵庫医大に赴任いたしまして、６年になります。「集中治療医学」単独の学科目は日本でも唯一と考えられ、本院の先取の気概に得意とすることをかけることができました。ICUを運営してまいりましたが、ここ数年の急性期医療充実への社会的な期待に対応すべく本院におきましても急性医療総合センターが来年には稼働することになりました。まさに周術期、救急領域は自分が研鑽してきた分野であり少しでも兵庫医大病院発展のお役に立てればと思い、浅学非才、若輩ではございますが今回副院長の職をお受けいたしました。皆様のご助力によって素晴らしい新病棟ができますように努力する所存でございます。よろしくお願い申し上げます。

東日本大震災 医療支援報告

学校法人兵庫医科大学では平成２３年３月１１日の東日本大震災発生直後から災害派遣医療チーム(DMAT)や救護医療チームとして現地に赴き、医療支援を行いました。復興にはまだ時間が必要な被災地において、医師、医療従事者不足を補えるよう現在も継続して、多角的支援を行っています。

少しでも皆さんのお役に立てるよう、今後も全力で支援してまいります。

福島第一原子力発電所５／６号機サービス建屋１階救急医務室看護活動報告

看護部　雑賀 逸平

太城病院長へ活動の報告

平成２４年２月２４日～2月２６日まで東京電力福島第１原子力発電所内(以下１F)にある５/６号機サービス建屋１階救急医務室(以下５/６ER)において看護活動を行ってきました。1F敷地内にある５/６ERへはJヴィレッジからチャーターバスで約１時間、半径２０km圏内は警戒区域となっており未だ街は復興の兆しもなく医療機関も全て機能停止している深刻な状況でした。そして数千人規模の作業員が高線量の放射線量の下、防護服にフィルター付き全面マスクという重装備で毎日復旧作業にあたっています。こうした状況下で発生した傷病者に対して速やかに医療提供が出来るように５/６ERは整備されていました。

ER内部

私の主な役割は以下６点でした。

①重症救急患者(外傷、ACS、脳卒中・放射能汚染患者の評価と除染介助など)に対する初期救急診療の介助
②Jヴィレッジへの救急搬送
③一般診療の介助
④医療機器・救急車点検・薬品の管理
⑤傷病者発生時におけるトリアージ
⑥web会議での情報提供(Jヴィレッジ・福井医大・OFC医療班(災害医療アドバイザー)・東電・日本救急医学会・放医研・広島大学・５/６ERが参加)

福島第一原発

４８時間の勤務では、積雪もありましたが幸い重症患者の搬入はありませんでした。東電の方の話では復旧にはまだ時間がかかるという事で、作業員の方の健康管理を含めた医療の提供は引き続き必要と感じました。

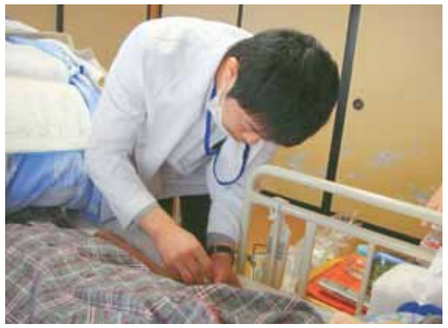
岩手県立高田病院での医療支援について

整形外科　諸岡 孝俊

平成２４年２月１３日から１７日にかけて、岩手県立高田病院へ医療支援のため行ってきました。陸前高田市は三陸海岸沿いの小規模な街です。今回の東日本大震災により、街は壊滅、人口約２万４千人のうち約１７００人の方が亡くなられています。高田病院自体も被災しており、津波により破壊されてしまいました。現在は、仮設の施設で医療を再開しており、私は整形外科医として外来診療の勤務を担当しました。訪れてくる患者さんは、一日約５０人程で、ご高齢の方が大多数でした。疾患も、変形性膝関節症や骨粗鬆症等の慢性疾患がほとんどでした。私は派遣前、被災地は地震後の影響で悲壮感が全面に漂っているのではないかと想像していましたが、患者さんもメディカルスタッフも総じて明るく、人間の芯の強さを肌で感じることが出来ました。まだまだ、街には瓦礫が積み重なり、被災した建物もそのままの形で残っていましたが、復興にむけて少しずつ前進しようとしている現場の方たちの姿を見ると、逆に自分自身の至らなさを省みると同時に、力をもらいました。短期間で、私自身がどれほど力になれたか分かりませんが、ある医師の「とにかく現場を多くの人に感じて、見て欲しい」という言葉が忘れられません。元通りの復興までは時間がかかると考えます。今回のような支援が、今後も継続されることを強く願います。

整形外科　堀之内 豊

平成２４年２月６日～１０日、岩手県の陸前高田市へ行ってきました。
リアス式海岸の穏やかな海に支えられた漁師町。この綺麗な海がこの町の生活を一瞬にして飲み込んだなんて嘘のようでした。しかし、時が止まったかのようにまだ手つかずのままの瓦礫がその事実を静かに物語っていました。
小さなこの町は国からも県からも復興の手は一切差し伸べられていない。「県立」高田病院は名のみで、県や公からは何の援助も無く残されたスタッフと市民の強い要望で再建された病院。独自に地方から医師が集ってなんとかやりくりしている状況。物静かで我慢強い東北独特の人柄。僕は整形外科医として赴いた。主に外来、そして仮設住宅への往診。外来では「膝ッコがいで(痛い)！」と訴える。僕が膝に注射をすると「ありがど。またくる」と言ってニーッと笑って健気にO脚を引きずって帰っていくお婆ちゃん。来週もさ来週もきっとこの病院に足を運ぶのだろう。わずか１週間足らずだけの滞在はむしろ僕に罪悪感さえ感じさせた。そしてこれが現実でこの現状を伝える事がせめて僕にできる事だと思い知らされました。



岩手県立宮古病院での医療支援について

全国医学部長病院長会議、被災地医療支援委員会において、東日本大震災の被災地に対して全国大学規模で医療支援を行うことが決定され、本学も岩手県立宮古病院へ輪番（１週間交代制）で医師を派遣しました。

第１回は平成２３年１０月２日から１０月１５日までに４名の医師が医療支援を行いました。（活動内容は広報２１４号にて掲載）

第２回は東日本大震災発生からちょうど１年を迎える平成２４年３月４日から３月１７日までの期間、４名の医師がそれぞれ１週間ずつ医療支援を行いました。

呼吸器・RCU科　山田 秀哉

平成２４年3月4日から10日まで、兵庫医大を代表し、被災地医療支援医師として岩手県立宮古病院へ行きました。伊丹空港から1時間20分でいわて花巻空港へ、そこから車で約3時間かけて宮古病院に到着しました。現地は3月でも雪が積もっていましたが、空気はおいしく、さわやかな寒さでした。

宮古病院での私の仕事は救急担当でした。すべての救急搬送患者を診療しました。搬送患者は、交通外傷、滑落事故、呼吸不全、急性腹症など様々であり、また、4、5人同時に搬送されたり、常に多忙な毎日でした。ほとんどの患者は入院となるため、各専門の常勤医師に引き継ぎました。

宮古病院への支援医師の派遣は平成24年3月末で終了となるようです。この医師派遣が始まる前、救急担当は研修医がしていたそうです。それだけ医師不足は深刻であり、支援医師の派遣が終了することを宮古病院のスタッフは非常に残念に感じていました。

今回、大学からの被災地医療支援医師派遣を通して、私自身が現地で多くのものを学んだと同時に、被災地だけでなく慢性的な医師不足が深刻化していることが主な原因である、日本の医療崩壊を止めることが何よりも最優先であることを改めて実感しました。

総合診療科　團野 大介

平成２４年３月４日から１週間、岩手県立宮古病院で医療支援を行う機会を頂きました。宮古市は雪におおわれており、凍えるほど寒く感じましたが、それでも３月に入って随分暖かくなったとのことでした。

業務内容は、主に内科外来診察と、それ以外の時間は救急外来のサポートでした。震災から１年がたち、震災による直接の病状悪化などは少なく、病院内は表面上、落ち着きを取り戻しているようでした。しかし、50人ほどいた医師は、30人ほどに減少しており常勤医は多忙を極めておりました。また、近隣の診療所の閉鎖や、介護施設のスタッフ不足による誤嚥性肺炎増加など、地域の疲弊による二次的な影響が次第に大きくなっていました。宮古病院は地域の中核病院として、全ての救急患者を受け入れており医師に受け入れ可否の判断機会はありません。そのため立て続けに救急車が入るなど大変厳しい状況となっていました。

宮古病院の医師やスタッフは、極めて多忙にもかかわらず非常に熱心に、黙々と診療にあたっており非常に感銘を受けました。医療支援が目的でしたが、むしろ多くのことを学ばせて頂いた気がします。３月で医療支援は一旦終了との事でしたが、やはり常勤医が一人でもふえることが不可欠と感じました。最後に、１週間と短い期間でしたが、我々を温かく迎えて頂いた宮古病院の方々に心より感謝申し上げます。

兵庫医科大学病院

リウマチ・膠原病科　角田 慎一郎

平成２４年３月11日から17日まで井上朋子先生と県立宮古病院へ行ってきました。大阪は春を思わせるような陽差しでしたが、花巻空港は雨、あたり一面は真っ白な雪でおおわれていました。空港から病院までは、北上山地の山間を左右に大きく揺られながら車での移動で、山頂付近では雨が雪に変わりました。病院には、ちょうど１年前の震災発生時刻の14時46分の少し前に到着し、２人で黙祷しました。この地域では、３月の雪は毎年のことらしく、昨年の震災後にも雪が降ったようで被災者の方々の尋常ならぬご苦労が偲ばれました。

12日から診療しましたが、雪が降り、路面が凍結して交通外傷の患者さんが多く来院しました。80歳を超えた人のバイク自損事故など都会では考えられないような診療も経験しました。岩手県の沿岸地域は高齢者が多く、交通手段がないため、90歳近くになっても自ら車やバイクを運転するしかないのが現状です。また、宮古病院には、心臓カテーテル用、一般の血管造影用と２台の立派な医療機器があるのに、医師不足でそれらの機器は利用できず、井上先生が急性心筋梗塞の患者さんを２時間もかけて搬送しました。今回の派遣はわずか１週間でしたが、病院、患者さん方に震災後の影響が強く残っているとの印象はそれほど強く受けませんでした。しかし、都会と僻地での医師数の格差、医療格差などを強く実感し、災害後という一時的なものではなく長期的に地域を支援する体制が必要だと強く感じました。今後も機会があれば協力したいと思いました。

救命救急センター　井上 朋子

東日本大震災からちょうど1年後の３月11日から17日の1週間、震災復興支援医師として岩手県立宮古病院に赴く機会をいただきました。

3月11日14時46分には宮古病院受付前のロビーで黙祷を行いました。宮古に到着して２日程はかなりの雪が降り積もり、冬の東北の厳しい寒さを体感しました。去年の４月に兵庫医大救護班として石巻にも行かせていただきましたが、避難所の方々が、支援物資のなかでも毛布がありがたかったと言っておられた意味をやっと実感できたような気がしました。被害が甚大だった田老地区の視察では、数々の集落が全滅し更地になったままで、１年たっても津波の爪痕はあちこちに残っていました。

病院での業務としては、私は主に救急外来を担当しました。交通外傷と意識障害が多く、多発骨折や敗血症性ショック、１９歳の脳梗塞から、低血糖発作のおじいちゃん、顎がはずれたおばあちゃんまで、様々な症例を経験しました。怪我や付き添いで来院され、次回の外来受診を勧めると「自分は復興の仕事をしているから休めない」と言う方が何人かおられたのも印象的でした。心筋梗塞の患者さんをカテーテル治療のできる病院まで片道２時間以上かけて吹雪の中Dr.car搬送するという日もありました。宮古病院の先生方は、震災後の深刻な医師不足で多忙極める状況にも関わらず、コンサルトするとフットワーク軽く対応して下さり大変お世話になりました。

近畿ブロックからの医療支援は３月で終了となるそうですが、今後も、被災地の方々が安心して生活できるよう、医師の偏在を解消しマンパワーを充足させる必要があると思います。

今回は、貴重な機会を与えていただき、ほんとうにありがとうございました。

第４回学校法人兵庫医科大学連携病院の会を開催

平成２４年２月２１日、ノボテル甲子園において平成２３年度学校法人兵庫医科大学連携病院の会が開催されました。この会は平成２１年６月に第１回目を開催し、今回で第４回目を迎えました。参加者も会を重ねるごとに増え、当日の出席者は学外者１１４名（５０病院）、学内者７１名の合計１８５名で、会場も満席となりました。

田辺三菱製薬株式会社
営業企画部
谷澤 正明 氏

学校法人兵庫医科大学
理事
西岡 清 氏

今回のテーマは「平成２４年度診療報酬改定を考える」とし、田辺三菱製薬㈱谷澤正明氏より「平成２４年度診療報酬改定の概要」、当法人理事であり東京医科歯科大学元病院長である西岡清氏より「DPCをどう使う」の演題でご講演いただきました。
谷澤氏からは平成２４年度診療報酬改定の説明の後、今後の急速な少子高齢化が社会保障制度の改革を促進させ、地域医療連携が益々重要となってくること、西岡氏からは中医協DPC分科会前分科会長としてのご経験を踏まえ、DPCデータを利用してどのようなことができるのか、また、医療機関別係数の今後の流れ等について説明がありました。

引き続き開催されました意見交換会にも大勢の参加があり、お互いの連携を深めることができました。

平成２３年度 防災訓練を実施しました

平成２４年１月１３日、災害拠点病院として地域災害が発生した場合の受け入れ体制の訓練・検証を目的として、医師・看護師等の医療従事者、事務員、学生ら約２００名が参加した防災訓練を実施しました。

列車と車の衝突事故で多くの負傷者が出たと想定。西宮市消防局のご協力のもと、救急車などで４９名の学生が仮想患者として次々に搬送されました。ムラージュ（特殊メイク）を施した仮想患者に、医師や看護師がトリアージを行い、事務員が名前などの情報を聞き取りました。また、災害対策本部を立ち上げ、参加者全員が一丸となって搬送から処置、病棟への搬送まで本番さながらの訓練に取り組みました。

当日は兵庫県災害医療センターより中山伸一副センター長と鎌田八重子看護師長にお越しいただき、今回の訓練についてご講評を頂きました。院内トリアージタグや院内ＩＤの活用、アクションカード（スタッフマニュアル）は評価されましたが、改善点も多くあり、参加者からの意見も含めて、緊急時にも適切かつスムーズに対処できるよう防災意識をさらに高める訓練となりました。

災害対策本部

軽症者コーナー

搬送、トリアージ

兵庫医科大学病院

１号館１２階特別病棟・１１階無菌室 運用開始

１号館１２階・１１階の改修が行われ、平成２４年３月５日、１２階が特別病棟として開棟しました。

また１１階東病棟の一般病室を一部改修し、平成２４年３月８日、無菌室・準無菌室として運用を開始しました。無菌室・準無菌室は現在１０号館６階にも設置されていますが、急性医療総合センター開設にともなう病棟移動が行われることをうけて１１階東に同室が新しく設置されました。

１号館11階 準無菌室

１号館12階 特別病棟（S室）

阪神タイガース　平野恵一選手が小児病棟を訪問

平成２３年１２月１６日、阪神タイガースの平野恵一選手が、入院中の子どもたちを元気づけるため小児病棟を訪問されました。おなじみのユニフォームに着替えて登場した平野選手に、子どもたちも大喜び。自身の経験をもとに「小さい体でも努力すれば必ず結果に現れる」と、子どもたちやそのご家族を勇気づけました。

その後は子どもたちによるハンドベルの演奏に急遽参加いただくことに。思わぬ展開にとまどいながらも子どもたちと息を合わせて見事「ジングルベル」を演奏してくださいました。また、病室にも訪問いただき、子どもたちやそのご家族は約２時間の交流を存分に楽しみました。

ハンドベルの演奏

直筆サインをいただきました。

小児病棟に絵画が寄贈されました

平野選手が小児病棟を訪問された様子を本学ホームページでお知らせしたところ、その様子をご覧になった方から絵画が寄贈されました。お医者さんと動物たちが描かれたやさしい絵です。寄贈者のご意向により小児病棟に設置され、日々、子どもたちのこころを和ませてくれています。

題　『しんさつエキストラ』
絵　はせがわ ゆうじ

ささやま医療センター・ささやま老人保健施設　消防訓練

平成２４年３月２２日に篠山キャンパスにおける平成２３年度第２回消防訓練を実施しました。

毎回ささやま医療センターとささやま老人保健施設の消防訓練を同一日に連続して実施しております。今回の訓練では、ささやま医療センターが午後１時３０分から深夜帯の２階病棟（療養病棟）２１１号室を出火場所と想定し、またささやま老人保健施設については午後２時から２階の認知症専門棟を出火場所と想定して実施しました。深夜帯は、両施設とも夜勤者・当直者のみの職員の少ない時間帯であるため、キャンパス内の職員宿舎入居者の救助応援も考慮した訓練でした。出火場所の感知器が作動し、非常火災放送が館内に放送されて緊迫した雰囲気の中、職員による初期消火、患者・入所者の避難救助が行われました。

消防訓練終了後、篠山市消防本部の指導のもと、消火器・消防設備の取扱い講習を行いました。

教授就任

機能再生医療学
山本 憲康
平成２４年２月１日就任

平成7年	3月	兵庫医科大学 卒業
	5月	兵庫医科大学病院 第4内科 臨床研修医
平成9年	4月	兵庫医科大学大学院 医学研究科 入学
平成13年	4月	兵庫医科大学 第4内科 助手
平成18年	10月	兵庫医科大学 内科学 上部消化管科 学内講師
平成20年	5月	兵庫医科大学篠山病院 内科
	7月	兵庫医科大学篠山病院 内科 講師
平成21年	4月	兵庫医科大学ささやま介護老人保健施設 副施設長
	10月	兵庫医科大学 地域救急医療学 特任准教授
平成22年	4月	兵庫医科大学篠山病院 副院長
		兵庫医科大学篠山病院 総合診療・家庭医療科診療科部長
		兵庫医科大学篠山病院 医療技術部門長 兼任
		兵庫医科大学篠山病院 医療安全管理室長 兼任
平成23年	2月	兵庫医科大学 地域総合医療学 准教授
	4月	兵庫医科大学ささやま医療センター 消化器・内視鏡診療科部長 兼任
		兵庫医科大学ささやま医療センター 地域連携・総合相談室長 兼任
平成24年	2月	兵庫医科大学 機能再生医療学 特任教授

平成２３年度 第２回感染症及び医療安全管理に関する講習会を開催しました

篠山キャンパスでは、平成１５年度より、教職員の感染症及び医療安全管理に関する教育の一環として講習会を開催しています。平成２３年度 第２回目の講習会を平成２４年３月２９日に篠山市民センターにおいて開催し、１３０名が受講しました。

第１部の感染症についての講習は、兵庫医科大学病院感染制御部 一木 薫看護師長より、「感染対策の具体策と落とし穴」をテーマにご講演いただきました。

第２部の医療安全管理の講習は、地域救急医療学の小竹 淳一朗助教よりＭＡＣチームの報告、統括セイフティマネージャー松尾 充子看護師長より、医療安全管理室からの報告として、平成２３年度のインシデント報告、タイムアウト実施報告があり、当キャンパスの現状について相互理解を深めました。

ささやま老人保健施設新年会（餅つき大会）

「よいしょ！ヨイショ！」と近隣ボランティアの方々と１０２歳の男性最高齢の入所者さんの力強い掛け声と共に、恒例のささやま老人保健施設新年会の餅つき大会の幕が開きました。

昨年１１月に老健厨房改修工事を終え広くなった通所デイルームに、入所者さん約９０名のうち半数近くの方が臼を囲んで二重三重の円になり、杵が振り下ろされる度に「よいしょ！ヨイショ！」と大合唱です。窓際には、職員が書いたタタミ２畳ほどもある今年の干支「龍」の墨字が飾られ新年会を盛り上げていました。

さらに、新年会の餅つき大会を盛り上げてくれたのが、昨年８月に西宮キャンパスから篠山キャンパスに異動となった２名の猛者（？？）たちです。杵をへっぴり腰？で振り上げ、入所者さんたちから「ヨイショ！」の応援を受けながら振り下します。どうも「よいしょ！ヨイショ！」が「よっこらしょ！」に聞こえるのは気のせいでしょうか？ともあれ、２名の猛者たちは、休日返上でボランティアとして参加し、入所者さんたちを大いに楽しませてくれました。

さて、お餅の出来栄えはご想像にお任せするとして、入所者さんたちの手によって次々と丸められ、最後は猛者たちのお腹の中へと消えていきました。

新年会は、餅つきの他に子供漫才、大紙芝居と続き、大盛況のうちに事故もなく無事に終了しました。写真は、餅つき大会を大いに盛り上げてくれた猛者たちの勇姿と大勢参加してくださった入所者さんたちです。

平成２４年度　学校法人兵庫医科大学　予算

財務部

平成２４年度予算が平成２４年３月２７日に開催された理事会で次のとおり決定されましたのでお知らせします。

１．平成２４年度予算編成にあたって

本法人の収支は、平成２１年度以降「収入に見合う支出」(財政基盤改善３年計画)を基本的な考え方とする支出抑制策の実施に加え、診療報酬改定等の追い風もあり兵庫医科大学病院の収益増加をうけ、順調に推移しています。また、兵庫医療大学においては、開学以来順調に年次を重ね薬学部も完成年度を迎えます。

しかし、近年の大型施設・設備投資等により、既存施設・設備等の将来の拡充・更新に係る準備資産は不足しており財務基盤の改善が求められています。

このような状況のもと、平成２４年度予算は、免震構造を備えた急性医療総合センターの建設と高度医療体制の構築に続き、西宮キャンパスグランドデザイン構想に沿った再開発整備事業を推進するに支え得る財政を堅持し、限られた資源のなかで健全な帰属収支差額を確保し、本法人の新たな活力と成長への礎となるよう編成を行いました。

２．平成２４年度消費収支予算の概要

収入予算合計は４７，００１百万円で前年度予算比＋１，４５６百万円、支出予算合計は４４，６９１百万円で前年度予算比＋１，８３１百万円となり、その結果、平成２４年度帰属収支差額予算は、２，３１０百万円確保しています。

収入について

・学生納付金：　兵庫医科大学では学生納付金を本年度入学生より引下げしますが、平成２１年度からの定員増、兵庫医療大学開学６年目にあたり薬学部生の増加により、２大学合計で７，５７８百万円(前年度予算比＋３４５百万円)を予算計上しています。

・寄　付　金：　兵庫医科大学開学４０周年記念事業支援のための募金活動開始、寄附講座、研究助成寄付金等により、合計１，１４０百万円を予算計上しています。

・補　助　金：　経常費補助金に加え、急性医療総合センターの耐震化整備事業補助金７７２百万円(前年度予算比＋４０１百万円)、教育研究設備補助金１０６百万円等を予算化し、合計３，０５３百万円(前年度予算比＋３３２百万円)を予算計上しています。

・事業収入：　兵庫医科大学病院では、急性医療総合センターの稼働にむけ、病棟移転による収入減少要因はありますが、１号館１２階の特別病棟の本格運用開始、一般病床の稼働率のアップ、外来単価のアップ等により２９，８２３百万円の医療収入を見込んでいます(前年度予算比＋６２６百万円)。また、ささやま医療センターでは、医療収入２，６８９百万円を見込んでいます(前年度予算比＋４３百万円)。法人全体では医療収入３３，０９０百万円(前年度予算比＋６７３百万円)、受託事業等その他事業収入１，２８６百万円を予算計上しています。

支出について

・人　件　費：　急性医療総合センター稼働に向けたコメディカル人員の計画的増員、処遇改善のための各種手当の増額等により、合計２０，２８１百万円(前年度予算比＋７４４百万円)を予算計上しています。

・教育研究経費：　兵庫医科大学で、研究基盤形成に係る事業経費、動物実験施設運営費、図書購入費等を増額し、計２，１７６百万円(前年度予算比＋２４百万円)を予算計上しています。兵庫医療大学では、全学部の完成年度にあたり経費の見直しと更なるステージへの飛躍のために、学生教育経費、奨学費、就職支援拡充費、国際交流関係費等を増額し、合計１，３１９百万円(前年度予算比＋２３百万円)を予算計上しています。

・医療経費：　物流センターを中心に経費抑制策を引続き推進しますが、電子カルテ等高度情報システムの導入や病棟の移転に伴う用品費等諸経費の増加により、兵庫医科大学病院で１４，５９１百万円(前年度予算比＋６０１百万円)、法人全体では１６，０８２百万円(前年度予算比＋５１１百万円)を予算計上しています。

・管理経費：　西宮キャンパスグランドデザイン推進費、中期事業計画立上げ経費、健診事業に係る調査費、中医薬孔子学院設立準備費、職員の人材育成関連費用等将来のための費用、託児施設運営委託拡充費、周年記念事業経費等に合計６１７百万円(前年度予算比＋１０５百万円)を予算計上しています。

３．平成２４年度施設・設備支出について

施設関係支出　(単位：百万円)

急性医療総合センター関連工事	３，７１０
西宮キャンパス配管等施設改修工事	１２６
兵庫医科大学病院情報ネットワークの更新	１６０
情報用基盤ＬＡＮの更新	１２
兵庫医科大学関連施設改修工事	４５
兵庫医科大学病院関連施設改修工事	４１
８号館耐震改修(初年度分)	１５
ささやま医療センター改修工事	１０
ささやま老人保健施設浴槽等改修工事	１２
兵庫医療大学体育館空調工事	１８
合計	４，１５０

設備関係支出　(単位：百万円)

情報・事務系業務システム更新	１１８
兵庫医科大学のセルソーター他大型機器備品	１９７
兵庫医科大学の一般設備備品	１７８
急性医療総合センターの医療機器の戦略的整備	２，１１７
急性医療総合センターの情報関連設備備品	６６９
兵庫医科大学病院の電子カルテ部門システム	９４０
兵庫医科大学病院の一般設備備品他	３１５
ささやま医療センターの設備備品	５１
ささやま老人保健施設の介護報酬請求システム他	８
兵庫医療大学研究設備備品	７２
合計	４，６６９

注　百万円未満については切捨て表示のため合計表示とは必ずしも一致しません

上記施設・設備合計支出８，８２０百万円に、借入金等返済支出１，６１５百万円、その他支出(外科系医師養成等奨学貸付金)３５８百万円を加えた資金支出合計は５２，１１０百万円となります。一方借入金等収入(私学事業団からの急性医療総合センターに係る借入１，５００百万円他)等を含めた資金収入合計は４８，５７０百万円となります。その結果、資金収支の差額は▲３，５４０百万円の支出超過予算となっています。

平成２４年度収支予算

消費収支予算

(単位：百万円)

収入の部	科目	平成24年度	平成23年度	増減額
消費収入	学生納付金	7,578	7,233	345
	手数料	298	280	17
	寄付金	1,140	1,160	▲ 20
	補助金	3,053	2,721	332
	資産運用収入	49	47	1
	事業収入	34,376	33,681	695
	雑収入	504	421	83
	帰属収入　合計	47,001	45,544	1,456
	基本金組入額	▲ 7,068	▲ 2,439	▲ 4,629
	消費収入の部　合計	39,932	43,105	▲ 3,173

支出の部	科目	平成24年度	平成23年度	増減額
消費支出	人件費	20,281	19,537	744
	教育研究経費	3,800	3,752	48
	医療経費	16,082	15,571	511
	管理経費	617	511	105
	減価償却額	3,329	3,051	277
	借入金等利息	63	69	▲ 6
	資産処分差額	80	135	▲ 55
	徴収不能額	13	11	2
	徴収不能引当金繰入額	15	20	▲ 4
	予備費	406	200	206
	消費支出の部　合計	44,691	42,859	1,831
帰属収支差額		2,310	2,685	▲ 375
当年度消費収入超過額		▲ 4,758	246	▲ 5,004

資金収支関連予算

(単位：百万円)

収入の部	科目	平成24年度	平成23年度	増減額
資金収入	学生納付金収入	7,578	7,233	345
	手数料収入	298	280	17
	寄付金収入	1,095	1,112	▲ 17
	補助金収入	3,053	2,721	332
	資産運用収入	49	47	1
	事業収入	34,376	33,681	695
	雑収入	504	421	83
	資産売却収入	0	2,800	▲ 2,800
	借入金等収入	1,606	1,380	226
	その他の収入	8	37	▲ 29
	収入の部　合計	48,570	49,714	▲ 1,144

支出の部	科目	平成24年度	平成23年度	増減額
資金支出	人件費支出	20,347	19,403	944
	教育研究経費支出	3,800	3,752	48
	医療経費支出	16,082	15,571	511
	管理経費支出	617	511	106
	借入金等利息支出	63	69	▲ 6
	借入金等返済支出	1,615	1,599	16
	施設関係支出	4,150	2,250	1,899
	設備関係支出	4,669	2,004	2,665
	その他の支出	358	283	75
	予備費	406	200	206
	支出の部　合計	52,110	45,645	6,465
資金収支の差額		▲ 3,540	4,068	▲ 7,608

注　百万円未満については切捨て表示のため合計表示とは必ずしも一致しません

平成２４年度の主な取り組み

【平成２４年度事業計画の重点施策】
・兵庫医科大学開学４０周年記念事業に向けた各種取組み
・急性医療総合センター開設に向けて、機能の有効活用策の構築
・西宮キャンパスグランドデザイン実現に向けた財政基盤の強化
・兵庫医療大学卒業生の国家試験高水準の合格率達成と優良な就職先の確保
・ささやま医療センターの収支改善に向けた取組み

Ⅰ. 事業計画

1.兵庫医科大学

1)教育・研究に関する事業

（1）兵庫医科大学

①教育効果向上へのアクションプラン
②国際交流活動の活性化への取組み
③教員に対するFDの更なる充実・強化
④開学４０周年記念事業「グランドデザイン構想」を見据えた新しい図書館の在り方の検討
⑤スキルスラボにおけるICT教育の充実

2）診療に関する事業

（1）兵庫医科大学病院

①急性医療総合センター開設に係る運営準備
②電子カルテシステム本格稼働のための事務機能強化
③電子カルテシステムの段階的導入（完成年度）
④病院情報システム（周辺システム）の更新
⑤医療収入の確保に向けた取り組み
⑥看護師・助産師確保と離職防止

（2）兵庫医科大学ささやま医療センター

①病院経営安定のための医療収入の確保

（3）兵庫医科大学ささやま老人保健施設

①利用者安定確保及び施設の充実による経営基盤の安定化

2.兵庫医療大学

1）教育・研究に関する事業

①兵庫医療大学将来構想に基づく次期中期事業計画の策定
②学部教育の充実と教育力向上と優良な就職の達成及び国家試験の高合格率達成
③戦略的広報活動による受験生の量と入学生の質の確保
④大学院（薬学研究科博士課程）の設置認可申請と修士課程の充実
⑤国際交流プログラムと国際活動体制の構築
⑥研究環境の整備と研究活動の活性化及び外部資金の獲得
⑦大学認証評価対応とPDCAサイクルによる点検・評価活動の活性化

3.法人部門

1）将来計画・経営安定化に関する事業

①西宮キャンパスグランドデザインの推進
（新教育研究棟の建設に向けた取組み及び1・8・10号館跡利用計画の策定）
②次期中期事業計画の策定と年次計画との連動
③兵庫医科大学４０周年記念事業募金
④兵庫医科大学開学４０周年記念式典の開催と記念誌の製作
⑤アーカイブの設置準備
⑥学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院設立
⑦物流改革の推進

2）広報に関する事業

①広報組織・体制の見直し、強化

3）情報整備に関する事業

①統合事務システムの構築
②情報資産の一元管理の推進

4）人材育成に関する事業

①事務局職員の育成強化
②兵庫医科大学と兵庫医療大学との連携強化及び教職員へのFD強化と卒前卒後教育の連携

Ⅱ. 施設整備・設備整備計画

1.西宮キャンパス

①教育・研究環境の整備・充実
②急性医療総合センター整備
③１号館の各種配管改修・更新工事（継続）
④８号館耐震改修計画
⑤基盤LAN設備の更新
⑥急性医療総合センターの情報機器・設備の整備

急性医療総合センター 建設工事進捗

平成２３年３月より建設を進めている急性医療総合センターは平成２５年６月の開設に向け、順調に建設を進めています。建設期間中は皆様にご迷惑、ご不便をおかけいたしますが、ご理解、ご協力のほど、宜しくお願いいたします。

平成23年11月24日現在

平成24年2月22日現在

完成イメージ

都市型保育園ポポラーが移転・拡大しました

メイビル（本学西隣のビル）４階に設置されていた都市型保育園ポポラー「兵庫武庫川園」が約２倍の面積となり同ビル３階に移転しました。以前は３０名であった本学専用枠を、平成２４年４月２日より７０名（９月から８０名）に拡充し、子育てのさらなる支援を図っています。専用枠対象職員は、診療に従事する常勤の医師、病棟・外来の常勤の助産師及び看護師です。

※利用希望の教職員は総務企画部総務課へお問合せください。

新家理事長 絵画展を開催

平成２４年３月２８日から４月１５日の１９日間、新家荘平理事長の絵画展が、文化サロン＆ギャラリー コブレンツ雲井において開催され、新家理事長が長年描き溜められた４５作品が展示されました。

今回の絵画展は夙川さくら祭協賛で、桜の下で能を舞う「熊野」という作品が絵画展の案内状になるなど、満開の桜の季節に多くのお客様に足をお運びいただきました。

新家理事長は幼いころより絵を描きはじめ、小学生の時には６年連続で大阪市長から様々な賞を受賞するほどの腕前で、長年描き続けられた絵画は、醫聖祭（大学祭）や病院での絵画展示などでも多くの皆さんの目を楽しませています。

新家荘平「熊野」

報道機関等への出演・掲載

本学の取り組みや医療関連業務、医師等に対する取材、報道機関への出演・掲載情報をお知らせいたします。

本学ホームページにも最新情報を掲載しています。
「兵庫医大　広報　新聞掲載」または「兵庫医大　広報　テレビ放送」で検索して下さい。
新聞等掲載記事一覧　http://www.corp.hyo-med.ac.jp/public/newspaper.html
テレビ放送情報一覧　http://www.corp.hyo-med.ac.jp/public/tvinfo.html

■新聞等

日程	媒体名	内容
2011年12月4日	読売新聞（朝刊）	「病院の実力」（遺伝カウンセリング）において、兵庫医科大学病院の治療実績（2010年）が掲載され、兵庫医科大学病院臨床遺伝部の玉置知子教授が、遺伝子カウンセリングの目的や方法についてお話された内容が掲載されました。
2011年12月9日	神戸新聞（朝刊）	兵庫医療大学リハビリテーション学部の野崎園子教授プロデュースにより、嚥下障害などの方にもおいしい料理を楽しんでいただくための催しとして、神戸ポートピアホテルにて開かれる「やわらかフランス料理で家族と楽しむクリスマス」の案内が掲載されました。
2011年12月10日	南日本新聞	第15回日本心不全学会学術集会の市民公開講座にて、兵庫医科大学病院循環器内科の増山 理教授が「心不全」について講演された内容が掲載されました。また、パネルディスカッションで様々な質問に回答された内容が紹介されました。
2011年12月13日	週刊朝日12月23日号	「知って得する！新・名医の最新治療」コーナーにて、兵庫医科大学病院内分泌・代謝科の森脇 優司教授が「痛風・高尿酸値血症」の治療について過去の治療事例などをお話しされた内容が掲載されました。
2011年12月17日	サンケイスポーツ、スポーツ報知、デイリースポーツ、スポーツニッポン、日刊スポーツ	阪神タイガースの平野恵一内野手が兵庫医科大学病院の小児病棟に慰問に訪れ、子ども達と共にハンドベルの演奏を楽しんだり、病室の子ども達をお見舞いいただいた様子が紹介されました。
2011年12月22日	日経新聞（夕刊）	「日経実力病院調査『がん拠点病院編』」と題された記事にて、がん患者合計が1700人以上のがん拠点病院（63病院 2008年）の1つとして兵庫医科大学病院のデータが掲載されました。
2011年12月25日	神戸新聞（朝刊）	神戸市内で行われたフォーラム「乳幼児を中心とした子どもの事故防止」(県、県医師会主催)にて、兵庫医科大学病院小児科の服部 益治教授が子どもの不慮の死の予防について講演された内容が掲載されました。
2011年12月27日	神戸新聞(朝刊)	兵庫医科大学病院呼吸器外科の大類 隼人助教が中心となって結成した、発展途上国での衛生環境の改善などを支援するNGOの活動が紹介されました。
2011年12月27日	毎日新聞折込み（奥様メモ・カレンダー）	「保存版 健康質問箱」のコーナーにて、兵庫医科大学病院耳鼻咽喉科の都築 建三講師が監修を行った「アレルギーはどうして起こる？」と題された記事が掲載されました。
2012年1月7日	神戸新聞（朝刊）	「ひょうごの医療」コーナーにおいて、兵庫医科大学病院整形外科の田中 寿一教授の母指CM関節症の治療事例が紹介されました。
2012年1月10日	読売新聞（朝刊）	「病院の実力」（泌尿器科がん）において、兵庫医科大学病院の治療実績（2010年）が掲載されました。
2012年1月14日	毎日新聞（朝刊）	2012年1月13日に兵庫医科大学病院において、兵庫医科大学の医学部学生と病院の医師や看護師、事務職員など約200名が参加して合同防災訓練が行われ、災害時の負傷者の受け入れ体制やトリアージなどの訓練の様子が掲載されました。
2012年1月16日	毎日新聞（朝刊）	「名医の条件」のページにて兵庫医科大学病院上部消化管外科の笹子三津留主任教授のインタビュー記事が掲載されました。
2012年1月19日	読売新聞（朝刊）	「医療ルネサンス」のコーナーにおいて、兵庫医科大学病院臨床遺伝部の玉置知子教授の実施した遺伝子カウンセリングの過去実例が掲載されました。
2012年1月19日	読売新聞（夕刊）	「病院の実力」（脳腫瘍治療）において、兵庫医科大学病院の治療実績（2010年7月～2011年3月）が掲載されました。
2012年1月20日	読売新聞（朝刊）	「第4回ひょうごがんシンポジウム」の特集記事において、兵庫医科大学の山村 武平名誉教授の講演内容が掲載されました。
2012年1月21日	神戸新聞（朝刊）	「ひょうごの医療」コーナーにおいて、兵庫医療大学リハビリテーション学部の藤岡 宏幸教授が手根管症候群の手術法や合併症などについて解説した記事が掲載されました。また、兵庫医科大学病院の手根管症候群の2010年治療実績が掲載されました。
2012年1月26日	日経新聞（夕刊）	「日経実力病院調査 大腸がん治療の実力病院」と題された記事にて、2010年7月～2011年3月における兵庫医科大学病院の大腸がん治療のデータが掲載されました。
2012年1月26日	毎日新聞折込み（奥様メモ・カレンダー）	「保存版 健康質問箱」のコーナーにて、兵庫医科大学病院耳鼻咽喉科の都築 建三講師が監修を行った「春の花粉症（スギ・ヒノキ）」と題された記事が掲載されました。

学校法人兵庫医科大学

日程	媒体名	内容
2012年2月3日	神戸新聞（朝刊）	県立総合リハビリテーションセンターで始まった「高次機能障害」の支援者向け研修で、兵庫医療大学リハビリテーション学部作業療法学科の佐野恭子講師が講演された内容が掲載されました。
2012年2月4日	神戸新聞（朝刊）	兵庫医療大学の松田暉学長が医療や大学教育に託す思いをつづっている学長ブログが、「心臓外科医の見た医療事情」との題で1冊の本にまとめられ出版されたことや、まとめられたエピソードの一部などが紹介されました。
2012年2月5日	読売新聞（朝刊）	「病院の実力」（小児救急）において、兵庫医科大学病院小児科の谷澤 隆邦主任教授が小児救急の現状と課題についてお話しされた内容が掲載されました。また、兵庫医科大学病院の小児救急の治療実績と体制（2010年7月～2011年3月）についてのデータが掲載されました。
2012年2月7日	毎日新聞（朝刊）	「キャンパス通信ポーアイ4大学連携講座」コーナーにおいて、兵庫医療大学看護学部の新井 信之教授が「精神障がい者の支援」と題して、精神疾患の患者さんに対する看護や支援について寄稿されました。
2012年2月10日	神戸新聞（ネット版）	2月10日に神戸港で行われた防災研修について、インターネットの動画ニュースにて、兵庫医科大学病院救命救急センターの久保山 一敏講師が訓練について話された内容が掲載されました。
2012年2月10日	神戸新聞（朝刊）	「カルテQ&A」のコーナーにて、兵庫医科大学病院眼科の木村 亜紀子講師が、「眼瞼下垂」の症状や治療法などについて患者さんの問いに答えた記事が掲載されました。
2012年2月12日	神戸新聞（朝刊）	乳がん、子宮がんの検診の無料クーポンの活用について紹介した記事の中で、兵庫県内のがんの相談支援実施病院のうちの1つとして兵庫医科大学病院が掲載されました。
2012年2月14日	神戸新聞、読売新聞（朝刊）	兵庫医科大学免疫学・医動物学の研究チームが発表した免疫に関する論文が14日の米国科学アカデミー紀要（電子版）に掲載され、中西 憲司 学長／免疫学・医動物学講座主任教授が記者発表した研究内容と共に掲載されました。
2012年2月14日	毎日新聞（朝刊）	「キャンパス通信ポーアイ4大学連携講座」コーナーにおいて、兵庫医療大学看護学部の青木 菜穂子准教授が「在宅医療サービス」と題した記事を寄稿されました。
2012年2月18日	サンケイリビング（産経新聞折込み）	兵庫医療大学薬学部の芝崎 誠司准教授が開発を進めている、カンジダ感染症予防の「食べるワクチン」についての紹介とコメントが掲載されました。
2012年2月18日	サンケイリビング（産経新聞折込み）	「意外に知らないお薬の話」コーナーにおいて、兵庫医療大学薬学部の青木 俊二教授が、点鼻薬の上手な使い方について患者さんからの質問に回答した内容が掲載されました。
2012年2月21日	朝日新聞（夕刊）	「体とこころの通信簿」のコーナーにて、兵庫医科大学病院眼科の三村 治教授が、「眼瞼けいれん」の症状や治療法などについて解説された記事が掲載されました。
2012年2月21日	毎日新聞（朝刊）	「キャンパス通信ポーアイ4大学連携講座」コーナーにおいて、兵庫医療大学看護学部の土田 敏恵准教授が「ストーマ・イメージアップ」と題した記事で、人工肛門・人工膀胱（ストーマ）について一般社会で正しい情報を持ってもらえるための活動について寄稿されました。
2012年2月27日	毎日新聞折込み（奥様メモ・カレンダー）	「保存版 健康質問箱」のコーナーにて、兵庫医科大学病院耳鼻咽喉科の都築 建三講師が監修を行った「黄砂アレルギー」と題された記事が掲載されました。
2012年2月27日	読売新聞（朝刊）	「医療ルネサンス」のコーナーにおいて、兵庫医科大学病院リハビリテーション部で実施している「CI療法」について、治療中の患者さんの実例とともに道免 和久教授のコメントなどが掲載されました。
2012年2月28日	毎日新聞（朝刊）	「キャンパス通信ポーアイ4大学連携講座」コーナーにおいて、兵庫医療大学看護学部の細見 明代教授が「老年看護」と題した記事で、高齢者の老年期を支える看護について寄稿されました。
2012年3月4日	読売新聞（朝刊）	「病院の実力」（アレルギーの病気）において、兵庫医科大学病院のアレルギーに関する病気の治療実績（2010年）データが掲載されました。
2012年3月6日	毎日新聞（朝刊）	「キャンパス通信ポーアイ4大学連携講座」コーナーにおいて、兵庫医療大学看護学部の藤井 真理子教授が「小児看護学」と題した記事で、小児の看護には、子どもの特性だけでなく家族の価値観を理解することの必要性などについて寄稿した記事が掲載されました。
2012年3月8日	日経新聞（夕刊）	災害等で家族を亡くした遺族ケアを行う人材を育成する「日本DMORT研究会」の研修会の様子が掲載され、同代表であるささやま医療センター救急科の吉永和正教授のコメントなどが掲載されました。
2012年3月9日	神戸新聞（朝刊）	東日本大震災では全国から災害派遣医療チーム（DMAT）が派遣され、そのうちの1つであった兵庫医科大学病院のDMATリーダーである救命救急センターの久保山 一敏講師が、当時の出動の様子を語った内容などが掲載されました。
2012年3月12日	神戸新聞（朝刊）	東日本大震災の被災地への継続的な医師派遣について、2月に派遣された兵庫医科大学病院 整形外科　堀之内 豊病院助手と諸岡 孝俊病院助手の体験談が掲載されました。
2012年3月20日	神戸新聞（朝刊）	第106回医師国家試験の結果発表が行われたことを報じた記事にて、大学別の合格率で兵庫医科大学が99.0%でトップであったことも掲載されました。
2012年3月25日	毎日新聞折込み（奥様メモ・カレンダー）	「保存版 健康質問箱」のコーナーにて、兵庫医科大学病院 皮膚科の山西 清文教授が監修を行った「紫外線アレルギー」と題された記事が掲載されました。

■テレビ放送等

日程	番組名	媒体名	内容
2011年12月16日	フジテレビ	「とくダネ！」	兵庫医科大学病院小児科の服部 益治教授が、「ポリオワクチンの生ワクチンか不活化ワクチンかの議論問題」について意見された内容が放映されました。
2011年12月24日	NHK総合テレビ	「おはよう日本」	兵庫医科大学病院上部消化管科の三輪 洋人教授が、「過敏性腸症候群」について解説された様子が放映されました。
2012年1月20日	毎日放送	「ちちんぷいぷい」	兵庫医科大学病院小児科の服部 益治教授が、インフルエンザ・ノロウイルスについて生放送のスタジオにて解説されました。
2012年2月9日	フジテレビ	「奇跡体験！アンビリバボー」	兵庫医科大学病院血液内科の小川 啓恭教授が担当された患者さんのドキュメンタリーが放映され、再現ドラマ内で小川教授とのエピソードも紹介されました。
2012年3月5日～9日	ABCラジオ、RSK山陽放送ラジオ	「健やかライフ」	兵庫医科大学病院泌尿器科の山本 新吾教授が「泌尿器の感染症」についてお話されました。
2012年3月13日	テレビ朝日	「たけしの健康エンターテインメント！みんなの家庭の医学」	「3時間スペシャル長引く治らない症状 本当の原因をもう1度探ります！～名医のセカンドオピニオンスペシャル5～」兵庫医科大学病院上部消化管科 の三輪 洋人教授が、逆流性食道炎や食道アカラシアの症状や治療についてスタジオにて解説されました。

ウェブ番組「兵庫の社長ＴＶ」出演中

インターネット上で公開されているウェブ番組「兵庫の社長 TV」に新家荘平理事長と太城力良病院長が出演しています。この番組は企業や団体のトップが、その生い立ち、創業・継承の経緯、学び、ビジョン等を語るものです。

兵庫医科大学病院ホームページの最新情報（2012 年 1 月 30 日）よりご覧ください。

2012 年 1 月 30 日　ウェブ番組「兵庫の社長 TV」に理事長・病院長が出演しました

http://www.hosp.hyo-med.ac.jp/news/news_120130.html

教職員の皆さんへ

広報課では法人全体の報道機関などへの出演・掲載を把握し、ホームページや広報誌を通して皆様にご案内させていただいております。

報道機関等から、広報課を介さずに取材依頼や掲載許諾があった場合、お手数をおかけいたしますが総務企画部広報課へご連絡ください。

事務局職員研修（戦略的組織課題解決プロジェクト）の実施について

人事部

平成２３年度から２５年度にかけて継続的に管理・監督者教育（対象：課長職・課長補佐職・係長職）を行なっています。マネジメント能力や部門運営に関する知識だけではなく、戦略的な課題解決のための論理的な思考法、課題解決、経営の視点からの業務改革、組織戦略、部下指導の基本を習得し、今後の組織運営の基盤を整備することを目的に実施しています。特に、能動的な組織運営やリーダーシップの発揮、保守的かつ踏襲型の考え方や行動からの脱却、自由で創造性に富んだフレキシブルな考え方や行動への変革促進、スピード感のある業務推進、論点を絞ったプレゼンテーション能力の向上を目指します。

学校法人兵庫医科大学基金　状況報告

「萌えの会」寄付活動を開始して以来、患者様をはじめ、後援会会員、緑樹会会員、名誉教授、退職者等は言うに及ばず、協力医療機関や関連企業等の幅広い方々から、温かいお申し込みを賜り、厚く御礼申し上げます。

皆様方からご寄付いただきました貴重な浄財は、教育・研究環境の整備や学生への奨学金等の支援を通じて、社会への貢献・還元のために使用させていただきます。

今後とも引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

（募金推進室）

H21.1.1～24.2.29

区　分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		合　計	
	件　数	金　額	件　数	金　額	件　数	金　額
申　込	178件	33,855,000円	294件	20,087,498円	472件	53,942,498円
入　金	174件	33,505,000円	286件	19,702,498円	460件	53,207,498円

寄付申込者ご芳名・法人名一覧　H23.11.1～24.2.29

〔企業等法人〕（１９法人）

500,000円　全兵庫個人タクシー事業協同組合阪神支部様
300,000円　小山株式会社様
50,000円　株式会社ドクタープラネッツ様

（ご芳名のみ記載）

武庫川医療サービス株式会社様
ベガファーマ株式会社くるみ薬局様
株式会社マルタマフーズ様
株式会社朝日工業社大阪支社様
株式会社今井電気商会様
アイホン株式会社様
ホーチキ株式会社　神戸支社様
株式会社　共英メソナ様
株式会社三晃空調様
八洲薬品株式会社様
アルファトリニティ株式会社様
株式会社イージス様
阪神消毒サービス様
鹿島建設株式会社関西支店様
株式会社日経サービス様
和研薬株式会社様

〔関連病院等〕（１法人）

（ご芳名のみ記載）

医療法人社団顕鐘会神戸百年記念病院様

〔教職員〕（１１名）

50,000円　森村　安史様
50,000円　山田　繁代様
50,000円　森田　峰広様
50,000円　太田　邦廣様

（ご芳名のみ記載）

三村　治様
北村　威士様
難波　光義様
岩崎　寮子様
山田　明美様
中西　憲司様
匿名　１名

〔その他個人〕（３４名）

50,000円　中谷　文治様
50,000円　久我　一郎様
50,000円　福光　美草様
50,000円　岸上　涼子様
15,000円　永島　定政様
10,000円　中嶋　二三代様
5,000円　清水　純子様

（ご芳名のみ記載）

利倉　一晴様
利倉　敬子様
遠山　隆夫様
遠山　登喜様
佐々木　宏様
酒井　京子様
中西　和子様
三村　宏子様
土井　進様
石戸　睦子様
三谷　辰朗様
匿名　１６名

〔緑樹会〕（２名）

100,000円　長澤　進様
匿名　１名

個人からの寄付金に係る所得税控除について

寄付金控除制度について、下記２種類のどちらか有利な制度を選択いただけるようになりました。確定申告の際、２０１１年に新たに導入された「①税額控除制度」もしくは、これまでの「②所得控除制度」の２つの制度から免税効果の高くなる一方の制度を選択し、税の還付を受けることができます。

❶税額控除制度（2011年に新たに導入された寄付金控除制度）

寄付金額から２千円（税額控除額）を引いた額の４０％が、税額控除対象額となります。寄付金額を基礎に算出した控除額を、税率に関係なく、税額から直接控除するため、小口寄付の減税効果が高くなるのが特徴です。

（寄付金額※1 － 2千円）× 40% ＝ 控除対象額※2

※1 寄付金額は総所得金額等の４０％までが税額控除対象額。　※2 控除対象額は所得税額の２５％を限度。

❷所得控除制度（既存の寄付金控除制度）

寄付金額から2千円を差引いた金額が所得金額から控除できる制度。所得控除後、所得金額に応じた税率を掛けて税額を算出。所得控除を行った後に税率を掛けるため、所得税額が高い高所得者の減税効果が高いのが特徴です。

（所得金額 － 所得控除額）× 税率 ＝ 税額

所得控除額 ＝ 寄付金額 － 2千円

兵庫医科大学開学40周年記念事業をはじめました。ご支援、ご協力をお願い致します。

詳細は募金推進室［0120-456-991］までお問い合わせください。

規程等の制定・改正・廃止（規程等の全文は教職員専用ページに掲載）

No.	項　目	制定・改正・廃止の趣旨	制定・改正・廃止日
1	学校法人兵庫医科大学利益相反ポリシー	両大学で制定されていた利益相反ポリシーを統合し、法人としての指針を明確にするため制定。	平成23年12月6日
2	学校法人兵庫医科大学利益相反マネジメント規程	両大学で制定されていた利益相反マネジメント規程を統合し、法人として規定するため制定。	平成23年12月6日
3	西宮キャンパスの職員代表者選出内規	職員代表者の職務、再任の取扱いや職員代表者の交代の要請措置を規定するため改正。	平成24年1月17日
4	学校法人兵庫医科大学再雇用規程	各キャンパスの職員再雇用制度の取扱いを、法人として統一するため、制定。	平成24年1月24日
5	学校法人兵庫医科大学広報室規程	広報室の運営について規定するため、制定。	平成24年3月21日
6	学校法人兵庫医科大学広報委員会規程	３キャンパスの広報活動等を総合的に検討する委員会を設置するとともに、3キャンパスそれぞれに同委員会を設置し、機動的で効率的な広報活動を図るため、制定。	平成24年3月21日
7	「学校法人兵庫医科大学広報」発行要領	上記5、6の規程制定に伴い、編集委員を追加するため、改正。	平成24年3月21日
8	西宮キャンパス広報委員会規程	「学校法人兵庫医科大学広報委員会規程」制定に伴い、「兵庫医科大学広報委員会規程」から西宮キャンパスの広報活動へ位置付けを改め名称変更するため、改正。	平成24年3月21日
9	学校法人兵庫医科大学行動規範	本法人に勤務するすべての者が遵守すべき基本事項を定めるため、制定。	平成24年4月1日
10	学校法人兵庫医科大学コンプライアンス規程	コンプライアンスの推進を図るべく、必要な事項を定めるため、制定。	平成24年4月1日
11	学校法人兵庫医科大学コンプライアンス委員会規程	コンプライアンスの推進を図るべく、委員会を設置するため、制定。	平成24年4月1日
12	学校法人兵庫医科大学事務組織規程	平成２４年度をもって薬学部が６年生を迎え、３学部ともに完成することに伴い、神戸キャンパスオフィスの事務組織を見直し、①「管理・運営グループ」の経理業務と物品調達業務を分離し「総務グループ」と「経理調達グループ」として設置、②「教育・学生支援グループ」から就職支援業務を分離し、新たに「就職支援グループ」を独立して設置するため、改正。	平成24年4月1日
13	兵庫医科大学利益相反ポリシー	学校法人兵庫医科大学利益相反ポリシー制定に伴い廃止。	平成23年12月5日
14	兵庫医科大学利益相反マネジメント規程	学校法人兵庫医科大学利益相反マネジメント規程制定に伴い廃止。	平成23年12月5日
15	兵庫医科大学給与規程	①自動車通勤を法人として認めたことで自動車通勤者には保険加入を義務付けること、②２４年度から暫定措置を設けず全面的に新支給基準で運用すること、③6ヵ月代金相当額を開始月に支給するなど通勤手当の支給の取扱いの変更等を規定するため改正。	平成24年4月1日
16	兵庫医科大学期間契約雇用職員給与規程	同上	平成24年4月1日
17	兵庫医科大学非常勤職員就業規則	常勤でない期間契約雇用者（アルバイト勤務者、嘱託職員（非常勤）、ポスト・ドクター）について就業規則が定められていなかったため、制定。	平成24年4月1日
18	兵庫医科大学動物実験規程	動物実験計画の申請手続きを簡素化し、動物実験計画の変更手続きを整理するため、改正。	平成24年2月7日
19	兵庫医科大学動物実験委員会審査細則	同上	平成24年2月7日
20	兵庫医科大学承諾解剖受託規程	これまで本学の費用で行っていた承諾解剖を、依頼者から解剖にかかる消耗品等の一部費用を徴収することを規定するため、制定。	平成24年4月1日
21	兵庫医科大学就業規則	看護師の職制として「副看護師長」の新設に伴い、監督職位変更のため、改正。	平成24年4月1日
22	兵庫医科大学給与規程	西宮キャンパス病棟看護師の夜勤手当、アイセンター勤務者及び中央手術部看護師の手術室勤務手当が改正されたため、改正。	平成24年4月1日
23	病院規程	診療部長会議と病院部長会が設置されているが、各々の会議目的・審議事項や構成員等がほぼ同一であり、あえて別々に開催する必要がなくなったため、診療部長会議を廃止し病院部長会に統合するため、改正。	平成24年1月24日
24	診療部長会議規程	上記規程改正に伴い廃止。	平成24年1月23日
25	兵庫医科大学病院奨学金（兵庫医療大学用）貸与規程	①規程の名称を「兵庫医科大学病院奨学金貸与規程」から一部変更し、②本学病院に就職せずに奨学金を返還する奨学生がいる現状から弁済方法を変更するため、改正。	平成24年4月1日
26	兵庫医科大学病院奨学金（兵庫医療大学用）・兵庫医科大学ささやま医療センター奨学金（兵庫医療大学用）貸与細則	①規程の名称を「兵庫医科大学病院奨学金・兵庫医科大学ささやま医療センター奨学金」貸与細則から一部変更し、②本学病院に就職せずに奨学金を返還する奨学生がいる現状から弁済方法を変更するため、改正。	平成24年4月1日

No.	項　目	制定・改正・廃止の趣旨	制定・改正・廃止日
27	兵庫医科大学病院奨学金（一般用）貸与規程	①規程の名称を「兵庫医科大学指定校等奨学金貸与規程」から一部変更し、②形骸化している指定校を廃止し、広く一般公募とし、より優秀な看護師・助産師の確保を図るため、改正。	平成24年4月1日
28	兵庫医科大学病院臨床研修歯科医規程	２年目の臨床研修歯科医を１年目の研修歯科医と区別し、歯科レジデントとして別途定めるため、改正。	平成24年4月1日
29	歯科レジデント取扱内規	同上	平成24年4月1日
30	職員等の室料の取扱要領	緑樹会会員（正会員、準会員）及び後援会会員に対する室料の取扱いを設定するため、改正。	平成24年3月21日
31	兵庫医科大学ささやま医療センター給与規程	①自動車通勤を法人として認めたことで自動車通勤者には保険加入を義務付けること、②２４年度から暫定措置を設けず全面的に新支給基準で運用すること、③6ヵ月代金相当額を開始月に支給するなど通勤手当の支給の取扱いの変更等を規定するため、改正。	平成24年4月1日
32	兵庫医科大学ささやま医療センター期間契約雇用職員給与規程	同上	平成24年4月1日
33	兵庫医科大学ささやま医療センター医療事故調査委員会規程	重大な医療事故発生時における、院外専門家等を含めた客観的な調査・検証を行う委員会を設置するため、制定。	平成24年4月1日
34	兵庫医科大学ささやま医療センター奨学金（兵庫医療大学用）貸与規程	①規程の名称を「兵庫医科大学ささやま医療センター奨学金貸与規程」から一部変更し、②医療センターに就職せずに奨学金を返還する奨学生がいる現状から弁済方法を変更するため、改正。	平成24年4月1日
35	兵庫医科大学ささやま医療センター非常勤職員就業規則	西宮キャンパス及び神戸キャンパスの非常勤職員就業規則が施行されることに伴い、全キャンパスにおける非常勤職員の就業規則の内容を揃えるため、改正。	平成24年4月1日
36	兵庫医科大学篠山病院非常勤職員就業規則	兵庫医科大学ささやま医療センター非常勤職員就業規則制定に伴い、廃止。	平成24年3月31日
37	兵庫医科大学ささやま老人保健施設給与規程	①自動車通勤を法人として認めたことで自動車通勤者には保険加入を義務付けること、②２４年度から暫定措置を設けず全面的に新支給基準で運用すること、③６ヵ月代金相当額を開始月に支給するなど通勤手当の支給の取扱いの変更等を規定するため、改正。	平成24年4月1日
38	兵庫医科大学ささやま老人保健施設期間契約雇用職員給与規程	同上	平成24年4月1日
39	兵庫医科大学ささやま医療センター就業規則	看護師の職制として「副看護師長」の新設に伴い、監督職位変更のため、改正。	平成24年4月1日
40	兵庫医科大学ささやま老人保健施設非常勤職員就業規則	西宮キャンパス及び神戸キャンパスの非常勤職員就業規則が施行されることに伴い、全キャンパスにおける非常勤職員の就業規則の内容を揃えるため、改正。	平成24年4月1日
41	兵庫医科大学ささやま老人保健施設非常勤職員就業規則（旧規則）	兵庫医科大学ささやま老人保健施設非常勤職員就業規則制定に伴い廃止。	平成24年3月31日
42	兵庫医療大学利益相反ポリシー	学校法人兵庫医科大学利益相反ポリシー制定に伴い廃止。	平成23年12月5日
43	兵庫医療大学利益相反マネジメント規程	学校法人兵庫医科大学利益相反マネジメント規程制定に伴い廃止。	平成23年12月5日
44	兵庫医療大学給与規程	①自動車通勤を法人として認めたことで自動車通勤者には保険加入を義務付けること、②２４年度から暫定措置を設けず全面的に新支給基準で運用すること、③6ヵ月代金相当額を開始月に支給するなど通勤手当の支給の取扱いの変更等を規定するため、改正。	平成24年4月1日
45	兵庫医療大学期間契約雇用職員給与規程	同上	平成24年4月1日
46	兵庫医療大学非常勤職員就業規則	常勤でない期間契約雇用者（アルバイト勤務者、嘱託職員（非常勤））について就業規則が定められていなかったため、制定。	平成24年4月1日
47	兵庫医療大学教務に関する規程	看護学部カリキュラム変更等に伴う改正。	平成24年4月1日
48	兵庫医療大学特任教員規程	特別に任用できる教員を広く求めるべく、制定。	平成24年4月1日
49	兵庫医療大学特任教授設置規程	上記規程制定に伴い廃止。	平成24年3月31日
50	兵庫医療大学大学院学則	看護学研究科・医療科学研究科（修士課程）の完成年後の院生募集に向けて、①医療科学研究科の入学定員の変更、②コース等の変更、③看護学研究科の学科目の変更を行うため、改正。	平成25年4月1日

■学校法人兵庫医科大学　■兵庫医科大学　■兵庫医科大学病院　■兵庫医科大学ささやま医療センター　■兵庫医療大学

西宮市津波避難ビルに指定されています

昨年１１月に西宮キャンパスの平成記念会館と立体駐車場が西宮市から津波避難ビルに指定されたことを受けて、津波避難ビルの標識が設置されました。また、平成２４年２月１１日に行われた西宮市小松地区の避難訓練では、近隣の方が平成記念会館に避難し、いざという時に備え避難方法や避難経路を確認しました。夜間、平成記念会館は施錠されていますが、災害発生時は地域住民の方に開放し、地域の方に避難場所として利用いただけるようになっています。

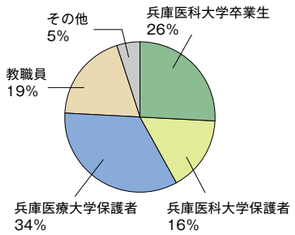
津波避難ビル案内看板

避難訓練の様子

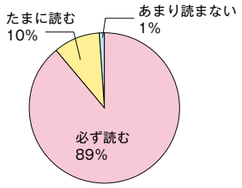
平成２３年度 学校法人兵庫医科大学「広報」読者アンケート結果

学校法人兵庫医科大学「広報」の読者アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。
頂いたご意見・ご感想は今後、より親しんでいただける誌面づくりに活かしたいと思います。
今後もぜひみなさんの声をお聞かせください。
（本誌46ページ掲載の『ご意見お問合せ先』をご参照ください。）

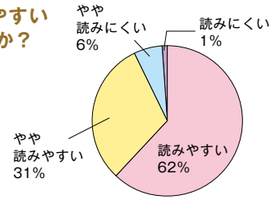
回答割合



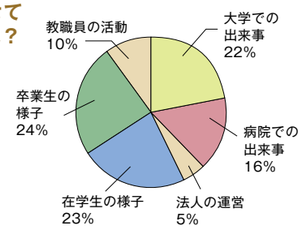
Q. 広報誌は読んでいますか？



Q. 読みやすいですか？



Q. より充実させて欲しい内容は？



ホームページをリニューアルしました

平成２３年１２月１日、兵庫医科大学ホームページのリニューアルオープンに引き続き、平成２４年３月２９日に兵庫医科大学病院・ささやま医療センター・学校法人兵庫医科大学のホームページもリニューアルオープンしました。来訪者の利便性向上と、情報の効果的発信を目的として、各ページを新たに編成しています。

今後もホームページでは最新の情報を提供できるよう取り組んで参りますので、皆様ぜひご活用ください。

※各ホームページのトップページはリニューアル後も同じURLからご覧いただけますが、トップページ以外のページはURLが変更になっている場合があります。ブックマーク等に登録されている場合は、再度ご登録をお願いします。

兵庫医科大学病院
http://www.hosp.hyo-med.ac.jp

ささやま医療センター
http://www.sasayama.hyo-med.ac.jp

学校法人兵庫医科大学
http://www.corp.hyo-med.ac.jp

SERIES 海外便り 第3回（全3回）

卒業生からのメッセージ

小坂（こさか） 久（ひさし） ボストン大学 外科 postdoctoral fellow

略歴

1998年	兵庫医科大学卒業　兵庫医科大学第一外科（現外科学）入局
2000年	宝塚市立病院　外科
2003年	兵庫医科大学　大学院入学
2007年	兵庫医科大学　大学院修了
2010年	ボストン大学　外科 postdoctoral fellow
2012年	兵庫医科大学　外科学肝胆膵外科　助教

みなさま、こんにちは。私は昨年１２月までアメリカ合衆国のマサチューセッツ州にあるボストン大学に留学していまして、２０１２年１月より兵庫医科大学外科学（肝胆膵）に再就職させて頂きました。今回で最終回の私の留学記は２年間の留学生活での出会いを振り返ってみたいと思います。

留学生活スタート

２０１０年１月、私は単身でスーツケース一つだけを持って渡米しました。留学初日はアパートの契約をした後に、レンタカーのトラックを借りて、日本で印刷しておいた地図を頼りに見知らぬ土地を３０km程ドライブして家具を買いに行きました。トラックに満載した家具を一人で部屋まで運んで組み立てたのですが、新しい生活への期待と共に、ガランとした部屋の中で不安と寂しさを感じたものです。その後も不慣れな環境の中で生活のセットアップを行う必要があり結構なストレスでしたが、研究室の陽気なアメリカ人の同僚達がランチや買い物、飲み会に誘ってくれたお陰で随分と気が楽になり、彼らの温かいサポートにより新生活にもすんなりと順応する事ができました。

友人に支えられ

留学から数カ月たった頃には異分野の研究施設で働く日本人の知り合いも徐々に増え、休日にサーフィンやロッククライミング、トレッキングなどに出かけてストレスを発散する事ができました。また、ハイエンドな研究者である友人たちから異分野における最先端の研究について教えてもらい、自分の研究に対するまったく新しい発想が生まれる事も多々あり、生活面だけでなく仕事面でも友人の存在は本当に有り難いものでした。

友人とトレッキングした
インディアン自治区の滝

ボストンは小さな街なのでいつのまにか友達の輪は広がり、研究者はもとより弁護士、証券マン、バレリーナ、音楽プロデューサーなど多才な面々とも知り合う事ができました。多様な職種、多様な考え、多様な言語、多様な人生観の友人と語り合い、触れ合う中で自分自身についてもいろいろ考え、認識する事ができた気がします。外科医になり無我夢中で研鑽を積み、研究を行い駆け抜けてきた人生でしたが、今後、外科医として研究者として自分がどうしたいのか、どうあるべきなのかを改めて考える事ができました。

ユタ州 THE WAVE

最後に

単身渡米で始まった私のアメリカ留学でしたが、たくさんの友人や同僚に恵まれ、切磋琢磨する事で仕事の進展と共に自己の成長という意味でも実り多い２年間になったと思います。２０１２年より母校である兵庫医科大学で勤務していますので留学で得た経験を活かして今後、より一層精進して行きたいと思っています。留学や研究に興味がある後輩諸子はいつでも気軽に声を掛けてくださいね。

ボスの家でのホームパーティー